

# 沖縄 OKINAWA TIMES タイムス

## 与那国島・海洋タウンミーティング

# 台湾との交流 時代の最先端

## 研究者ら取り組み評価

【与那国】「与那国島・海洋タウンミーティング2008」海ととも切り拓く、島と日本の豊かな未来」（主催・与那国町、財団法人都市経済研究所）が九日、町保健センターで開かれた。東海海洋学部の山田吉彦准教授が「国境の島・与那国と海洋立国ニッポン」をテーマに講演。昨年施行された海洋基本法が、海上交通の安全確保などの観点から離島の重要性をうたっていることに触れ、国境の与那国島が台湾との交流で自立を目指す姿を「時代の最先端」と評価した。

山田准教授は北方領土や沖ノ島、竹島などの事例を挙げ、日本最西端の与那国島に「人が住む」ための活性化策として、台湾との交流を地域住民はもちろん、県や国と一丸となって取り組むことが必要と強調した。七人が参加したパネルディスカッションでは、安全保障が専門の佐道明

広中京大教授は離島振興が海の安保につながることを説明。「台湾と中国との交流を深め、中台で争いがあれば、与那国が間にあって仲裁できるような関係を築いてほしい」と激励した。

北方領土問題に詳しいユーラシア21研究所の吹浦忠正理事長は「与那国は日本人が普通に行ける

国境の島。与那国だけでなく、日本全体で活性化を考えなければならぬ」と話した。与那国町観光協会の真謝喜八郎筆頭理事や与那国漁協の土地常大組合長は、島の資源を活用し島を盛り上げていく決意を示した。電通の盛和春シニアプロデューサーは「ホームページの充実な



国境の島の重要性などを話し合った「与那国島・海洋タウンミーティング」＝与那国町